

●発行日：2015年7月18日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行：教材出版 学林舎



学習教育の行く先 考える時間をつくりだせるか!?

子どもたちにとって長い夏休みがはじまります。それぞれの年代で、学習＝学びの課題があります。この学びの課題を取り組むにあたって、大切なことはなんでしょうか？子どもから見ると「早く終わらせたい」「めんどくさいから、やりたくない」などなどプラス思考で取り組めない課題も多いです。こういったとき、指導する側はどういった言葉を子どもになげかけることができるでしょうか？

そのひとつに**“課題について考える”**という時間を学習者に提案することができます。今までの学習教育は“学校”“試験（入試）”“資格取得”などなど様々な身近な目的、環境（おかれている状況）に対して、対処療法的に学習を推し進めてきました。そのことによって、学習教育は成立してきましたが、現在、未来の社会状況を考えたとき、この対処療法的な学習教育では対応できません。求められているのは**「自立（自律）学習」「積極学習」「思考学習」といった能動的な学習力、学ぶ力を身につけられるか**どうかにあります。

先日、小学校低学年と未就学のお子さんを子育て中のお母さんから「成長する思考力GTシリーズをどういう風に使ったらいいのか？」というご質問を受けました。私がこういった質問を受けた場合、必ずお伝えしていることは「この教材を使って、**お子さんが考えている時間をプラス評価してください**」と伝えています。そして、「子どもの学習意欲、状況は毎日違いますので、1ページしかできないこともあるだろうし、1問しかできない時もあるかもしれませんが、日々、少しでも考える学習を積み重ねて欲し

い」と。子どもたちは普段の学習において、パターン的なトレーニング学習に多くふれています。**大切なのはトレーニング学習と思考学習のバランス**です。私がカリキュラムに対して、ご相談を受けたときにいつもお伝えしているのは、ウォーミングアップ→思考学習→クールダウン→自己評価（今日の学習に対して）です。中でも、**自己評価を学習者にさせることが、能動的な学習力、学ぶ力を身につける大切なキーワード**だと考えています。

私自身、恥ずかしながら、このことに気づいたのは30代半ばでした。気づいたというより、今まで自己評価することを避けてきたのかもしれませんが、しかし、自己評価なしに自分の未来を切り拓けないと実感した時、あらためて能動的な学習力、学ぶ力の重要性を感じたのです。

昨日もメディアで「大人の学び直しが急増している」という言葉を聞きました。年代によって、学び直しの理由は違うかもしれませんが、学習すること、学ぶことの大切さを感じたからではないのでしょうか。余談ですが、私の母は、末期のガンで亡くなりましたが、亡くなる3日前までスティーヴン・ホーキングさんの「宇宙への秘密の鍵」「宇宙に秘められた謎」を読んでいました。人は死を前にしても、知りたい、学びたいという気持ちは尽きないことを知りました。

子どもたちが生きていく未来は、私たち大人が今まで体験、経験のしたことがない時代に突入していきます。20年、30年後には、地球を飛び出し、多くの人々が宇宙旅行を手軽にしているかもしれません。そして、今以上に便利な社会になっているかもしれません。しかし、時代は変わろうと社会は変わろうと普遍的なものはあります。その一つに「考えること」があります。**考えることができる限り、学んでいくことができる限り、様々な問題を超えていくことができるのではない**でしょうか。この夏、考える時間を共に。

（北岡）

大学の行く先 大学の価値って!?

宝 塚大学造形芸術学部、学生募集停止に関するニュースが関西地区のメディアを通して7月に入り取り上げられています。少子化が進み、大学前入時代を迎え、こういったことは今後増加していく可能性はあります。文部科学省も含め、この問題を改善していくために様々な検討がなされているようですが、統廃合といった中学、高校ですでおこなっている方法でしか問題を解決できない状況にあります。大学側としても、様々な生徒募集戦略をおこなっていますが、**学生を集めている大学とそうでない大学の二極化**が進んでいます。

学生を集めている大学は、必ずその大学にしかない**“特化”した学習カリキュラム、教育カリキュラム**をもっています。学生を集めきれしていない大学は、表面的には学部などを増設して、“特化”しているように打ちだしていますが、カリキュラムが不足しているケースが多いです。二極化の幅は今後、ますます拡大していきます。こういった中で、大学も含め、教育機関は何をしていかなければいけないのでしょうか？先日も大学の関係者から**「何をすれば、学生はあつまりますか？」**という直球の質問を受けましたその質問に対して私は、3つ応えました。**「近隣の大学がおこなっていない学習カリキュラムの分析」「他の大学がおこなっている教育、教育サービスを100個あげて、あなたの大学でそれが出来るかどうか」「全学生に大学に求めることをヒアリングやアンケートなどで実施」**。この3つに限らず、調査・分析することは、どんな分野の仕事においても、大切なキーワードです。

30・40年前は、看板をあげれば、学生は集まりました。それは、**大学に行くということが価値があった時代**です。これからは、**大学でどのような学習教育、教育サービス、そして社会に出るための準備が大学でできるか**にあります。大学進学を目指すのであれば、その大学にどのような価値があって、可能性があるのかを学生自身も見極めなければ、いけないのです。(北岡)

学習塾の行く先 動画配信の重要性

東 進ハイスクールは、日本において動画授業の老舗といえます。有名な先生の講義がいつでも受講できるこの動画授業のシステムは、多くの学習塾が導入しています。さらに、東進ハイスクールは在宅受講コースをつくり、家でも動画配信を通して、講義を聞けるシステムがあります。こういった、動画配信を通しておこなわれるeラーニング教育は、拡大しています。**学習塾においても、授業の動画配信、学習ポイントを集めた動画配信は、生徒募集の大きな切り口、学習サービスのひとつ**になっています。例えば、YouTubeを使って、無料で動画配信をして、塾・教室の広告として使われているケースは多々あります。理由は、検索された際に上位に上がってくるというポイントです。例えば、動画タイトル「〇〇県〇〇市〇〇学習塾『数学正負の数』解説授業」などを入れると、その地域で塾を探している方がいれば「〇〇県〇〇市〇〇学習塾」とGoogleで検索した場合、**その動画が上位に検索**されます。他の検索ワードでも上位に検索される可能性があります。検索される場合、多くの方がGoogleを使います。ついでYahooなどをつかって検索をされます。YouTubeは、Googleの関連会社、部門のひとつのため、YouTubeがGoogleの検索に上位に上がってくるのは必然です。こういった情報をキャッチしている方は、**広告媒体、塾・教室の認知、イメージ戦略としてYouTubeを使っている動画配信**をされます。

また、英会話教室などを中心に有料で授業動画の配信、LIVE動画の配信が拡大しつつありますが、学習塾においても、塾に通えない子どもに対しての授業動画の配信、LIVE動画の配信が少しづつですが拡大しています。学林舎では、動画配信をサポートするためのサービスをおこなっております。学林舎、北岡にお問い合わせください。

(北岡)

国語を 考えてみる

文／学林舎国語顧問 森本 秀俊

ああ、素晴らしき哉、日本語⑮

私 はマンションに住んでいますが、朝にごみを捨てに行くとき、時々通学中の小学生たちとすれ違うことがあります。その子たちが「おはようございます」と大きな声であいさつをしてくれると、その日一日が気分良くスタートします。今回はあいさつの語源について見ていきましょう。

「おはよう」は「お早く〇〇ですね」という言い方の「お早く」が転じて「おはよう」となったそうです。「お早くからお仕事大変ですね」「お早くからいらっしゃっているのですね」などと、相手への敬意を示す言葉だそうです。

別れのあいさつである「さようなら」は、「左様ならば」という言葉の「ば」が省略されてきた言葉だそうです。「左様ならば」は「そういうことならば」という意味を表しています。別れ話になって「そういうことならばしょうがない」ので、あきらめて別れましょうという気持ちがふくまれているとも言われています。最近の若い人たちは、「さようなら」とはあまり言わず、「じゃあね」とか「またね」とか使いますね。無意識のうちに、「さようなら」の中にあるネガティブな意味をさけているのかもしれない。

「ただいま」の語源はいろいろな説があるようです。その中で興味深いものは、「たらい間」という言葉を語源とするというものです。「たらい間」とは、昔、帰宅したときに、たらいで足を洗いながら、家の人たちとその日の出来事を会話する時間を意味していたそうです。「たらい間」が転じて「ただいま」となったという説は、なるほどなあと感じさせます。

「ただいま」に対する「おかえり」という返答のあいさつですが、これにはおもしろい語源の説があります。室町時代の九州の小さな大名であった岡信綱は、その領土を守るために毎日のように厳しい軍事訓練をくり返していました。そんな訓練に参加した家来たちの心の支えとなったのが、信綱の一人娘である絵里姫だったそうです。訓練で疲れ切った家来たちにとっては、城で出迎える絵里姫の清楚な姿が癒しになっていたそうです。「岡絵里」から「おかえり」。これはちょっと疑わしくもあります。

「ありがとう」は「有り難い」という言葉を語源としています。「有り難い」は「有ることを欲していてもなかなか困難で実際には少ない」という意味です。だから、めったにないことをしていただいて、感謝しておりますという気持ちがこもった言葉なのですね。

「ありがとう」と言われたときに、「どういたしまして」と答えますが、この言葉はどのようにしてできたのでしょうか？ この言葉を細かく分析すると次のようになります。「どう（どのように、何を）」＋いたす（するの謙譲語）＋ます（丁寧語をつくる助動詞）＋て（反問的用法の助詞）。これは「何をしたいというわけでもありませんよ」ということを意味しています。「たいしたことはしていないので、気になさらないでください」という気持ちを相手に伝える言葉なんですね。

いろいろなあいさつの語源について見てきました。何か施しを受けて「有り難いようなことをしてもらい深く感謝しています」と言い、相手は「たいしたことではないから気になさらないでください」と答える。あいさつは、人と人をつなぐ大切なかけ橋だということがわかります。

ああ、素晴らしき哉、日本語。（つづく）

算数・数学から見える世界

文／学林舎算数・数学顧問 深見 和孝

前回に引き続き、たし算の教え方についてのお話です。たし算の場面には、「増加」とよばれるものと「合併」とよばれるものがあります。例を挙げると、前者は「4個あったところに3個増えると全部でいくつ?」、後者は「4個のあるものと3個あるものを合わせていくつ?」といった問題になります。式にするとどちらも「 $4+3$ 」で7個になるわけですが、1つの式でいろいろな場面を表せることを言いたいわけです。

ついでに言うと、ひき算ではもう少し複雑です。たとえば、「7個のものから3個取ると残りはいくつ?」「7個あるものと3個あるものの違いはいくつ?」「7個あるものからいくつ取ったら3個残るの?」などです。いずれも「 $7-3$ 」で表される場面です。

では、私が子どもに算数を教えるときに、「増加」や「合併」を意識して教えるかという、そんな経験はありません。自分が生徒であったときには、たし算の意味など考えたこともありませんでしたし、たし算にそんな考え方があることを知ったのは、講師や教材の仕事をするようになってからです。それも、教科書や算数指導の本から得た知識でしかありません。

では、私がたし算を教えるならばどうやるかといいますと、とりあえず覚えさせます。 $3+4=7$ 、 $2+7=9$ 、 $5+3=8$ など、式と答えが瞬時に言えるようになるまで覚えてしまえ!というやり方です。一旦覚えてしまえば、意味はあとからその子なりにできてくるのではないかと思います。

たとえば、「 $4+3=7$ 」の式になる問題を3つつくってみよ!と問うてみたらどうでしょう。

「お菓子を4個持っていて3個もらったので7個になった。」
「色紙を4枚持っていて3枚もらったので7枚になった。」
「車が4台あって3台来たので7台になった。」

これでは、ちょっと残念です。3つとも同じような「増加」ですね。

「公園に男の子4人と女の子3人がいてみんなで7人。」
とつくれたら、GOODです。

「バス停で4人降りて次のバス停で3人降りたら7人降りたことになる。」とつくれたら、かしこいな〜と感心します。(2段階の増加です)

このあたりのセンスは、その子の読書量などによって個人差があると思いますが、つまらない答えばかりであってもガッカリすることはありません。いろいろな体験がたし算に結びつく下地をつくっておくことが肝要かと思えますし、教師役が子どもの答え方に対して臨機応変にリアクションできれば良いと思います。

教師役がせっかちになってしまうと、「全部や合わせて」という言葉がでてきたらたし算、残りや違いという言葉がでてきたらひき算をすればいいのよ!なんてことを言ってしまうがちですが、それでは身も蓋もないといえますか、教える方の面白味に欠けます。

まあ、あまり指導法のようなものにこだわらずに、覚えるべきことはしっかり覚えさせ、あとは子どもが自由に考える様子を面白がっていればよいのではないのでしょうか。

(つづく)

深見先生著作の「中学数学精選パターンドリル集」

教科書レベルの問題を夏休みにとことん学習

教科書を意識した学年別のプリントになっているため、学校の進度に合わせて、学習することが可能です。

【スタンダード版】では、同じパターン問題を3パターン学習できるので定期考査対策で事前に復習・確認できるプリント教材です。

ページ見本、詳細は学林舎WEB (gakurin.co.jp)をご覧ください。

電話(06・4962・5876)、e-mail(info@gakurin.co.jp)でも承っています。

クロスロード Crossroad

第47回 文／吉田 良治

夏休み

今年も夏休みが始まります。子どもたちにとっては1カ月以上自由に過ごせる、待ちに待った長期休暇です。しかし、親にとっては日ごろ子どもが学校にいる間、子育ての心配をしなくて済みました。この長い夏休みに子どもが過ごす時間をどうスケジュール管理するかが課題です。特に小学生になるとリスク管理上も、子どもがひとりで過ごす時間を極力なくしていくことが重要です。

専業主婦の家庭なら、子どもが家で過ごす分に大きな問題はないかもしれませんが、共稼ぎの家庭や父子・母子家庭になると、子どもが一人になる時間が増えるので、ある程度工夫が必要になります。例えば通常放課後の学童プログラムなどが、夏休み用として朝から夕方まで預かるサービスがありますので、それを利用するのが一般的かもしれません。またスポーツや勉強、音楽、etc... 様々な習い事に参加するものもあるでしょうが、子どもが一日中同じことをし続けるということは難しいでしょうから、いろいろな組み合わせの工夫も必要でしょう。

アメリカでは一般的に子どもがひとりでいることは、親が罪に問われます(州によって多少違いはあります)。それがたとえ家の中であってもです。日本以上に女性の社会進出や、片親家庭の子どもが多いので、親にとって夏休みは頭を悩ませる毎日のようです。

2年前の6月にアメリカへ行った際、小学生の子どもを持つ友人(夫婦共働き)も、夏休みのスケジュールで色々悩んでおられました。『前週子どもは5日間のスポーツプログラムに参加し、日中は仕事に集中できたのに、今週は子どもの予定の目処がたっていないので、父親か母親のどちらかが家に残らねばならない!』と思索していました。幸いご近所に住む子どもの友だちの母親

から『来週ならうちの家でお宅のお子さんを預かるよ!』という申し出があり、翌週の子どものスケジュールの目処が立ちました。このような時はご近所の仲間たちとの助け合いも大事です。特に相手方は中国系の家庭なので、中国語を教えてもらえる!というメリットもある!と友人は大喜びでした。

日本でも子どもの連れ去りなどの事件が多くなり、子どもを一人にしないようなサポートを増やすことが求められています。アメリカのように、子どもを一人にしない法的な罰則はありませんが、公的な機関のプログラムと、地域でのサポート体制を構築することも重要になります。

先月シアトル・マリナーズが夏休み前の小学校を訪問し、毎年恒例の『D.R.E.A.M Team』プログラムを実施しました。そこでエースのヘルナンデス投手が、『夏休みになっても毎週本を2冊読みなさい!』と、ヘルナンデス投手自ら作成した絵本も学校へ提供しました。読解力を養い思考を鍛える上で、読書の時間を持つことはとても重要なことです。

シアトル・マリナーズの許可を得て現在大阪の小学校で実施している『D.R.E.A.M Team』プログラムで、私もこのヘルナンデス投手の事例を基に、子どもたちに夏休み中に毎週本を2冊読みましょう!と指導をしましたところ、多くの子どもたちが、『私も本をたくさん読みます!』と感想文を書いてくれました。

このプログラムを実施しているのは、放課後に子どもを預かる『いきいき活動』で、夏休みも朝から一日預かっていただけます。宿題を早めに仕上げることや、自由研究、その他長い夏休みの間、色々な経験ができるはずです。時間はたくさんありますので、毎日少しずつ読書をする時間も持ってください!(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。
全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>